

# 自分たちの目線で次々と質問

中学生に議会の役割や仕組みを学んでもらい、市政に対する関心を深めてもらおうと「成田市中学生議会」が10月10日、市議会議場で開催されました。今年度は、市内11中学校から代表24人が出席。身近な問題から市の将来に関することまで中学生の視点からさまざまな事柄を質問しました。今回は、そのうちの主な質問とそれに対する答弁を紹介します。

## 成田市の観光対策 久住中学校

お正月や夏休みに成田山の境内に行くとき、たくさんの人で混んでいます。

その中の多くはお年寄りの方たちです。ベンチがあまりなく休憩をとる場所が少ないので、お年寄りの方がつらそうに見えます。境内の階段に座っている人も見受けられますが、通る人に迷惑になっていると思います。

また、階段の上り下りもお年寄りの方にとっては、とても大変だろうと思います。祇園祭のときには、混雑していて道の狭さも感じます。こうしたことから、ベンチの設置や階段、道の整備をした方

がいいだろうと思います。

さらに成田の観光を楽しんでもらうためには、成田山だけでなく、成田各地のいろいろな名所を巡るツアーなどを企画して、もっと多

くの人に成田市を知ってもらいたいと思います。

久住地区には、市川団十郎のお墓や荒海貝塚など歴史的なものがあります。ほかの地区にもさまざまな名所や遺跡がたくさんあると思うので、成田市全体が観光地になっただけだとは思っています。

成田市の観光対策がどうなっているのか教えてもらいたいと思います。

**市長** 国においては「観光立国」、県においては「観光立県」を推進しており、今や観光は日本の重要な施策として位置付けられています。本市においても観光は、各



緊張した面持ちで席に着く中学生議員たち。いよいよ開会です



種産業の活性化はもとより、将来の市民生活の豊かさをもたらしす上で、大変重要であるという認識の下に「観光立市」を掲げ、積極的に観光行政を推進しております。

具体的に申し上げますと、本市は通年型の観光地を目指しており、1月の「初詣で」に始まり「梅まつり」「成田太鼓祭」「大塔まつり」「紫陽花まつり」「成田祇園祭」「御利生祭」「紅葉まつり」など、さまざまなイベントを四季を通して開催しており、全国各地から年間1、300万人以上のお客様をお迎えしております。平成20年は「成田山開基1070年」を迎え、全国からたくさんのお客様がご越しになりますので、市では観光振興の大きな機会ととらえ、大いに盛り上げてまいりたいと考えております。

ご質問の中に「正月や夏休みの成田山境内の混雑時に、ベンチの少なさや階段の上り下りの大変さを、特にお年寄りの方を感じている」とございましたが、境内には休憩所やエレベーターが設けてあり、これらを利用される方もいらっしゃると思いますが、成田山への参詣客が高齢化する中、このたびのご提言につきましては、成田山新勝寺にお伝えしてまい

たいと思います。

また、「祇園祭の混雑時に道路の整備の必要性を感じる」とのご提言につきましては、現在表参道のセットバック事業が進んでおりますが、物理的に整備が不可能な箇所につきましては、警備を強化するなどの対策に協力してまいりたいと考えております。

次に、「成田山だけでなく、もつとほかの名所も知ってもらいたい」「成田市全体が観光地になった方がいいな」というご提言についてですが、成田の観光スポットといえます。成田山新勝寺をはじめ、義民「佐倉宗吾」をまつつた「宗五堂」、坂東札所観音二十八番の霊場である「龍正院」、唐の鑑真和尚が創建したと伝えられる「大慈恩寺」のほか、成田は印旛沼や利根川に面しているため自然豊かな水辺の景観を楽しめるなど、たくさんさんの観光資源がございます。

また、成田国際空港に隣接した「さくら山」では、離発着する航空機を間近に見ることができ、新しい観光スポットとして人気があります。観光名所を巡るツアーのご提言がありました。観光施設を見て回って遊べるようにすることは、本市の観光振興

においては重要な課題であり、ツアーではありませんが、本年3月15日からは、JR成田駅や成田山新勝寺、イオンモール成田、成田国際空港を結ぶ「成田市観光循環バス」を運行開始しております。この事業は、成田国際空港の外国人客を誘致しているほか、レトロ調のバスを採用しているため、バスそのものを新しい観光資源とした取り組みでもあります。また、成田の観光施設を多くの方に知っていただくためには、観光PRが重要であると考えており、観光案内所やホームページ、パンフレット、ちらしによる情報発信のほか、都内などでキャンペーンを行うなど、観光に「成田の特産品」を含めたPRをしてまいります。

さらに、ご提言いただきましたように、新たな観光資源の掘り起こしにも力を入れ、個々の観光施設を点ではなく面でとらえるという観点から、本市全体を活用した観光振興を推進してまいりたいと思います。そして、観光振興にとつて何よりも重要なのが、お客様を迎える「おもてなし」の気持ちであると考えていることから、リピーター客を増やすためにも親切な「おもてなし」の向上に取り組んでまいります。

出席した中学生議員(敬称略)



出席した中学生議員(敬称略)

遠山中学校…池田みち子、森田恭平  
久住中学校…山岡徹也、細川翔平  
豊住中学校…根本晃平、伊藤晴香  
西中学校…伏田めぐみ、三角静那

中台中学校…小池夏未、則安伸哉  
吾妻中学校…菅原梨菜、島村藍  
玉造中学校…田中優子、小林茉結  
下総中学校…中野里菜、飯島崇弘

大栄中学校…軸屋恵、鳥山誠  
成田高等学校附属中学校  
…京増知恵美、長田優人、諸岡裕城  
成田中学校…蓼田佑紀、飯塚沙織、後藤佑介

# 「コミュニケーション・イングリッシュ」の授業について 玉造中学校



り、将来は完璧に英語をマスターして、世界中の人々とたくさん英語で話し、自分の世界を広げていきたいと思っています。そこで、わたしは英語の文章を声に出して読んだり、英語のCDを聞いたりして、日々努力をしてきたつもりです。また、学校のALTの先生に、英語で積極的に話しかけるようにしてきました。

中学校に入学して、小学校にはなかった英語の授業を初めて受けたとき、とても興味を持ちました。それからわたしは英語が好きにな

りました。しかし、今の授業数では限界を感じ、もっと英語の授業を増やしてほしいという気持ちが強くなりました。そんな中、今年度から「コミュニケーション・イングリッシュ」の授業が開始されました。

「コミュニケーション・イングリッシュ」の授業が始まり、今まではできなかった英語の勉強ができるようになり、とても感謝しています。

「コミュニケーション・イングリッシュ」の授業を受けているうちに、いろいろな疑問がわいてきました。ほかの市町村に先駆けて、この授業が行われるようになったと聞いていますが、その経緯を教えてください。また、今後この授業をどのように展開していく予定なのか教えてください。

「コミュニケーション・イングリッシュ」と称し、実践していただいていることと存じます。ご質問の「これまでの経緯」については、議員も承知のことと思いますが、学校においては、授業時間および教える内容は全国一律で行われていますが、成田市ではその規制を緩めることのできる特別な区域として、平成15年5月、国より「国際教育推進特区」の認定を受けました。

小学校における「聞く・話す」心の活動を軸とした英語科授業を受け、中学校での拡充した週1時間の英語科授業では、教科書を用いずに、場面や機能による単元構成をしたコミュニケーション重視の授業展開がなされています。今後、現在、成田地区の小中学校で実践している特区の取り組みを下総・大栄地区の小中学校に拡大してまいります。

このことにより、小学校においては英語科を設置すること、中学校においては通常では年間105時間の英語科総授業時間を、140時間に拡充することが可能となりました。

このような本市独自の英語教育を推進することにより、次代の担い手である中学生の皆さんが豊かなコミュニケーション能力を身に付け、将来、国際空港都市成田を支える人材になっていくことを期待しております。

## 中学生議員質問一覧(質問順)

遠山中学校	道路の道幅拡張工事の完了のお礼とお願い 公共施設の利用について
久住中学校	成田市の観光対策 成田山周辺の交通整理
豊住中学校	不審者情報について 給食について
西中学校	合併に伴う効果 これからの成田市について
中台中学校	外国人との交流について 公園施設の管理について
吾妻中学校	都市計画について 図書館の利用について
玉造中学校	災害対策について コミュニケーション・イングリッシュの授業について
下総中学校	下総地区のごみ収集について 成田市の環境問題について
大栄中学校	大栄地区の交通機関について 「ポイ捨て禁止条例」による効果
成田高等学校 附属中学校	成田市民の防犯対策 各種スポーツごとの施設の増設
成田中学校	障がい者福祉について 駅周辺の放置自転車対策と駐輪場の増設

## 「ポイ捨て禁止条例」による効果 大栄中学校

大栄町は去年から成田市になり、旧大栄町とは少し違いがあります。しかし、大栄町のおかげであつて、あまり実績が上がっていません。なかった条例があります。

その一つに「ポイ捨て禁止条例」があります。ポイ捨て条例は、大栄町ときにはあまり効果が上がっていないように感じます。そして、成田市になってもポ

イ捨て条例があり、「ポイ捨てをすると罰則を受けます」という看板を見たことがあります。話しによると、ポイ捨てや不法投棄をすると罰金を科せられると聞きました。しかし、看板が立っていないだけでもポイ捨てる人はいるし、そんな人を見つけたとはなかなかできないと思います。



後藤佑介さん(成田中学校)

議場全体の動きを把握しながら、大きな声でスムーズな進行ができるよう心掛けました。会議中さまざまな質問がありましたが、わたしたちの生活に密接する疑問や要望に対して、市長や教育長から一つひとつ丁寧な回答があり、市議会の重要性を認識できました。

## 議長 Interview

諸岡裕城さん

(成田高等学校付属中学校)

議事の流れを一つひとつ確認しながら落ち着いて進めることを意識しました。自宅では、両親に手伝ってもらい進行の練習をしてきました。今日は傍聴席に両親が見に来ていたのですが、練習どおりの成果を披露できたと思います。



そのような中で、成田市では毎年の程度の成果が上がっているのを知りたいと思います。あまり効果が上がっていないのなら、各学校の代表が見回りなどを行っていった方がいいのではないかと思います。

います。  
**市長** いわゆる「ポイ捨て禁止条例」というのは、「成田市空き缶等及び吸い殻等の散乱の防止に関する条例」というのが正式な名称です。

成田市では、ポイ捨て行為はいいけないという自覚を、市民はもとより、車や電車で成田に来られた方や通過される方々へも促すために、平成9年4月1日にいわゆる「ポイ捨て禁止条例」を制定し、JR成田駅周辺をその重点地域として指定し、月1回、環境美化の啓発や散乱ごみの収集のため、こ

の重点地域で商工会議所、観光協会、商店街などボランティアの方々の協力により駅前クリーン運動を実施しており、この地域では、ポイ捨ては減少傾向にあるものと考えております。

また、不法投棄などを未然に防止するため、市職員および各地区に配置しております1555人の廃棄物不法投棄監視員により、市内を巡視するとともに、夜間監視の警備会社へ委託をしたり、監視カメラの設置など、監視体制の強化を図っております。さらに、日本の表玄関であります成田国際空港に通じる国道51号および295号に散乱するごみにつきましては、空港周辺環境美化協会の協力を得て、啓発を兼ねた美化活動を実施しております。

このように成田市では、いろいろな取り組みを行っておりますが、「ごみのポイ捨て」に対しまして、規則や罰則を厳しくすることで対応するのではなく、いろいろな機会での啓発活動や一人ひとりのマナー、市広報による啓発を通じて、市民が街の美観に関する意識を持っていただけるよう努めてまいりたいと考えております。

※くわしくは市民支援課(☎201-1507)へ。

### 中学生議会を終えて

## 「次代の成田担う」

### 若い力を感じた」

成田市長 小泉一成



今回で4回目を迎えた中学生議会ですが、各中学校からいただいた質問は、成田市が直面した重要課題に関するもの、生活や地域に密着したもの、あるいは身近な教育分野に関するものなど、いずれもすばらしい質問であったと感じました。

答弁する側として、なるべく専門用語や行政用語を使わないようにしようと話合ってきたのですが、難しい言葉を使わざるを得なかった部分もあり、中学生の皆さんにはなかなか理解ができなかった部分もあったことと思います。

皆さんのご意見やご提言を一つひとつ拝聴すると、皆さんが日ごろよりこの成田市のことを真剣に考えていただいているこ

とがうかがえ、先輩としてとても心強く、誇らしく思います。

8月には全日本中学校陸上競技選手権大会で、西中学校陸上競技部女子リレーチームが400mリレーで全国優勝を果たしました。さらに、春の選抜高等学校野球大会で活躍した西中学校のOBである成田高等学校野球部の唐川侑己選手がプロ野球の千葉ロッテにドラフト1位指名をされました。

このように、いずれ21世紀の成田を担う皆さんの活躍を刺激に、私たちが「住んでよし、働いてよし、訪れてよし」を基本理念に、成田市の将来像を考えてまいります。

皆さんも、学業や部活動にも専念されて、充実した中学生生活を過ごすことができるよう、心からお祈りいたします。市議会議員には25歳から立候補できます。10年後あるいは20年後には、皆さんが胸に付けた成田市のバッジを議員バッジに替えて、この議場でこれからの成田市そして市民の幸せのために頑張ってくださいたくことを期待しております。